

## 第4回 バス交通活性化セミナー資料

事例

「まちなか線運行による中心街の活性化」  
(持続可能な公共交流を目指して)

軽米町

## まちなか線運行による中心街の活性化

～持続可能な公共交流を目指して～

人口	10,178人	分類	町民バス
面積	245.74km <sup>2</sup>	法令	道路運送法第79条の2
人口密度	41.42人/km <sup>2</sup>	運営主体	軽米町



軽米町 総務課 企画G

### 背景

昨今のモータリゼーションの進展や多様化、人口減少、少子高齢化の進行などによりバス利用者が年々減少を続け、収入不足によるバス事業者の経営不振が深刻さを増している。

加えて、地域間路線に対する接続、複雑な路線、広いエリアに高齢者が点在する等の課題を抱えており、財政負担が深刻になってきている。

また、本年度からは町内中学校が1校に統合され、スクールバス対応等の負担が増大している。

この様な中、県の支援チームの協力をいただきながら、鉄道路線の無い当町の生活交通の確保、特に高齢者などの交通弱者の「おでかけ」を確保できるような、公共交通を進めるために見直しを図る必要がある。

# 町内バス運行の現状

## 町内路線バスの現状

運行形態	運行区域	路線数	備考
路線バス（JRバス東北）	軽米線（軽米病院～二戸駅）	1路線	
	軽米線（軽米～市野沢線）	1路線	
路線バス（南部バス）	軽米高速線（軽米～日赤病院）	1路線	
	大野線（八戸～洋野町）	1路線	
	伊保内線（軽米～九戸村）	1路線	
路線バス（岩手県北バス）	大野線（軽米～洋野町大野）	1路線	
	シリウス号（軽米～東京）	1路線	1往復／日
高速バス（十和田観光・国際興業）	八盛号（八戸～盛岡）	1路線	2往復／日
高速バス（県北バス・南部バス）	町内全域	15路線	79条 100円、土日祝日運休
町民バス（業務委託）	鶴飼線（軽米～鶴飼） 民田山線（軽米～民田山）	2路線	4条 土日祝日運休
コミュニティバス（業務委託）			

## 町内路線バスの利用状況（高速バス除く）

年度	業務委託			町単補助 南部バス	国庫補助 JRバス	計
	町民バス	コミュニティバス	県北バス			
H18	37,433	11,813	30,073	111,100	102,523	292,942
H19	36,044	15,357	29,554	117,284	102,557	300,796
H20	38,795	13,667	28,001	119,316	97,283	297,062
H21	36,084	12,024	21,162	102,239	105,440	276,949
H22	39,634	11,542	19,735	86,915	102,152	259,978
H23	39,469	10,810	15,547	62,912	83,532	212,270

※町民バス・コミュニティは、スクール混乗含み

## 課題を把握するために学ぶ

- 専門家に学ぶ
- 利用者に学ぶ
- 庁内会議でお互いに学ぶ
- 先進地に学ぶ
- 現場(バス事業者)に学ぶ

## 課題を把握するための具体策

### <会議の開催>

- 岩手県公共交通支援チーム検討会（吉田樹氏、24年度5回、25年度1回）
- 庁内関係課による交通連絡会議（24年度9回、25年度2回）
- 軽米町地域公共交通活性化協議会（24年度2回、25年度3回）

### <先進地視察>

- デマンド交通などを中心に視察実施（八戸市と南郷区、長沼町、田子町、一戸町他）

### <研修会参加>

- 全国市町村アカデミー(公共交通)研修（大津市:土井 勉氏）
- 地域科学研究会セミナー（東京都:鈴木文彦氏）
- 総合的交通基盤整備連絡会議（福島県:田村亨氏、加藤博和氏） 他7回

### <意向調査>

- 利用者本人の意向を確認するため、バス乗降調査、利用者アンケート調査、地区懇談会等により意見・要望・課題等を整理した

## 要望と課題（要望＝課題ではないが、要望の中に課題のヒントが……）

### ～要望～

- 今ある交通手段を無くさないでほしい
- 町民バスの滞在時間を長くしてほしい
- 高速バスへの接続を確保してほしい
- 高校生をスクールバスに利用させてほしい
- お昼前後の中心街での移動手段がほしい など

### ～課題～

- 生活路線バス維持に係る負担増加
- スクールバス増台に伴う有効活用
- 中心街の賑わい(交流人口)の減少
- 町民バスの路線や運行回数の課題
- 地域毎に経済活動の方向が分散 など



## 方向性

- 単なる移動手段でなく貴重な交流場所 → 利用者のお出かけを少しでも広げる！
- 成功事例と条件が似ていても同じではない → 身の丈(地域)に合った方法と内容で良い！
- 必ずしも新たなものを取り入れるだけが善か？ → 改善が悪い訳では無い！

～ 知ってもらい乗ってもらうための戦略と戦術 ～

項目	戦略	戦術	概要	課題等
1 認知度の 向上	①広報活動	○広報誌 ○時刻表 ○軽米TV ○町HP	○軽米TV・広報誌・HPを主体に活用しバス利用促進のPR	○特に時刻表の作成は重要で、第三者のデザインなどが必要である
		○バス出前講座	○行事や授業の中で、社会科教育の一環で、出前講座などを活用し、バスに触れ合ってもらう	○バス会社、小学校、保育所などと連携が必要 ○バス会社などの協力が不可欠
2 利便性効 率性の向 上	②親しみやすいバ ス	○Myバス意識の醸成	○マイバス意識が自然に芽生えるように、バスやイベントで活用していく	○「バスは大事なんだ」と訴えても、意外に響かないものであるため、自然に触れ合う機会をつくる必要がある
		○イラストを活用	○イメージキャラクター等をデザインし、親しみやすいバスを目指す	○乗ってて恥ずかしくないことが重要 ○予算的に確保が難しい
2 利便性効 率性の向 上	①運行路線等の 見直し	○ダイヤ見直し	○町民バスの全域週2回運行とし滞在時間を拡大 ○老福・ハートフル線を定時間隔運行 ○可能な限り地域間路線へ接続	○町民バスを朝のスクールに使用しているため、なかなか地域間路線接続が難しい ○現在の3台で、どれだけのことができるかを追求していくことが重要 ○コミュニティバスの運行時間の設定は、地元利用者と協議が重要
		○路線見直しと路線延長	○路線数を整理し効率を図る ○新井田線を堰の下まで路線延長 ○丸木橋観音林線を大清水経由	○今までの町民バスの便数は確保し、さらに利便性を向上させる ○丸木橋線を迂回することにより、出発時間を若干早めることが必要であるが、小中学生の利用が多いため、教委・学校と協議が必要
		○バス停見直しと増設	○町民バスもコミュニティバスもバス停を見直し増設 ○中心街のバス停を見直し ○観音林のバス停を見直し	○バス停設置は、県公安の指導を受けることが必要 ○個人宅前にならないよう配慮が必要 ○市街地において、いかに利用者の機動性を確保するか ○路線バス停を間借りするため、会社に協議が必要
	②軽米高校生の 利便性の向上	○軽高生のスクールバスへ混乗 ○軽高生の通学費助成	○スクールバスの空席を活用し、交通不便地域の高校生に限り利用を可とする ○軽高生が公共交通機関を利用した場合、利用額の1/2を助成	○交通不便地域に限定としての空席の活用なので、利用希望者が多い場合の調整方法が問題 ○毎年4月に希望者の把握と乗車可能人数との調整のため、事務的に高校から協力が無いと難しい ○交付額の半分は、町の商品券で交付できないか ○スクールバスと軽米高校の調整が主になる事から、具体的な方法については教育委員会にて行ったほうが効率的
	③一部区間デマ ンド運行	○デマンド運行の試行	○町民バスエリアの遠隔小世帯地域を限定に実施	○大野川・百鳥地区において、電話予約による利用を進めるが、住民説明など事前協議が必要
	④まちなか線／イ ンター線	○中心街の医療機関や商店等を往復運行 ○高速バスへの接続の確保	○中心街の移動手段として、11時・12時・13時発で、主要な医療機関と商店前を運行	○路線バス運行時間は、病院発JRバス9:00と13:50、南部バス13:25、県北バス10:02と13:59となり重複しない ○まちなかを便利にするための線で、多くの利用が見込めることから愛称を募集し親しみをもって利用してもらえるように
⑤車両の小型化	○小型車両による運行 ○コバンザメの運行	○コミュニティバスを29人から10人乗りにし効率の向上と経費削減 ○7人になった時点で、追加車両の確保により乗車を確保する	○新たに10人乗り車両を2台の購入が必要 ○市日など多くの利用が見込まれる場合、また、突発的に多くの利用があった場合は、一般タクシー利用などで移動を確保は問題無いか	
⑥料金の見直し	○上限運賃の導入	○町内の上限運賃を設定	○既存民間事業者が4社となり、各社との調整がなかなかうまく進まない ○国庫補助路線も1路線存在	
3 安全性快 適性の向 上	①高齢者対応	○補助ステップ ○「ちょこっと愛」運動	○安全性の確保 ○乗務員の心遣いを大切にす運動	○低床バスは雪国のため難しい ○補助ステップ及び乗務員による高齢者をサポートも出来ないか
	②安全運行と車内 の快適空間づくり	○あいさつ運動 ○コミュニケーションづくり ○交通ルール厳守と安全運行 ○町と事業者の協力連携	○乗務員のあいさつ運動の徹底 ○乗務員の車内の声かけ運動 ○アルコールチェック等、乗務員の健康状態の把握と安全教育 ○利用者の安全と快適性を優先するため協力連携	○運行管理責任者による適切な運行教育が重要 ○乗務員は、運転をするだけでなく、地域住民とのコミュニケーションを大切にす意識が更に必要

# 見直しの方向①

## ○ダイヤの見直し

- ・全ての地域で週2回以上の運行とする
- ・中心街での滞在時間を拡大し交流を促進する
- ・中心街の運行方向を同じにし、高齢者がわかりやすいものとする

## ○軽米型デマンド運行

- ・利用が少ない地域に、電話予約による運行により効率化を図る

## ○路線、バス停の見直し

- ・要望が多い空白地域へ路線拡大
- ・4条バス停の利用

## ○軽高生の利便性の向上\_①

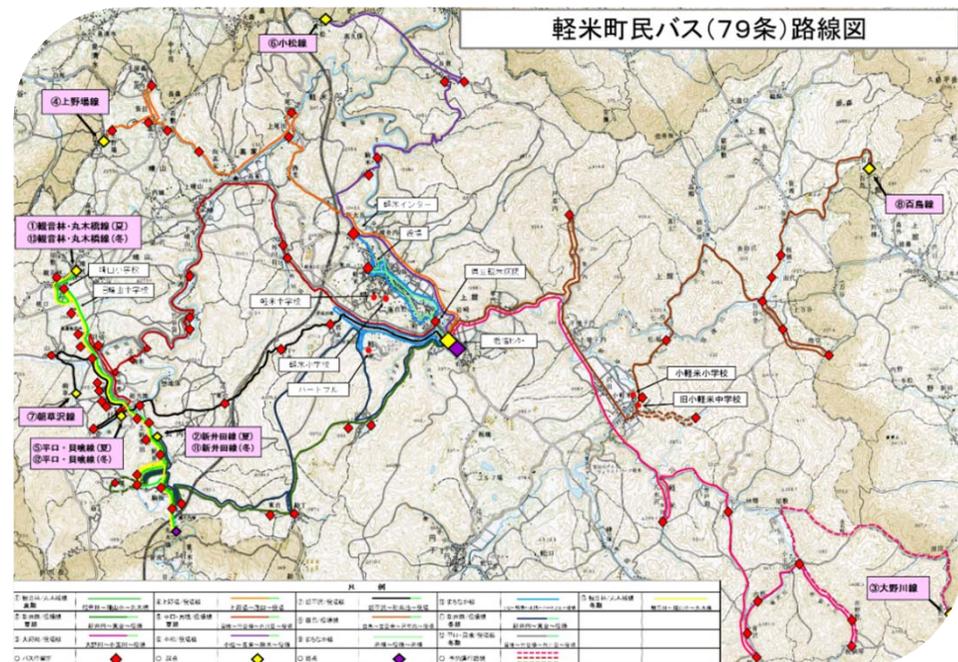
- ・空白地域住民から高校生の通学にスクールバス利用の要望



- ・原則、小・中学生の空きシートの活用
- ・高校側と協議の上、利用希望調査



- ・調査の結果、見通しが立ったため実施(教委)





## 今年度の予定

- 小学生へのモビリティマネジメント教室（県地域バス交通等支援事業活用）
  - ・町の交通事情を盛り込んだ資料を作成し、小学校高学年を対象にバスの必要性や環境問題を考える機会として出前講座を実施する
  
- 高校生への通学助成制度の周知
  - ・高校と連携を取り、継続的に生徒や父母に周知を図る
  - 今後、中学生に対しても周知していく
  
- 高校生のスクールバス混乗の周知
  - ・スクールバスの空き席を活用として、高校生の通学手段の確保に努める
  
- 減クルマチャレンジウイークの参加
  - ・昨年は、バス通勤が不可能な地域も多くあるため、協力してもらえるか不安であったが、前向きに取り組んでくれた方も意外と多く、継続的に意識付けを図ることが大切であると感じた
  
- 利用者意向調査
  - ・見直し後の状況について、利用者からの意見を集約していく
  - ・今後繰り返し、見直しを図っていく

## 問題点や課題

- ・長期的な人口減少の中、持続可能な公共交通の在り方
- ・利用者が減った際の運賃体系の在り方
- ・今後の民間事業者に対する考え方     etc

## ひとり言

- ・周囲の考えを変えることの難しさや、失敗したでは済まされないプレッシャー
- ・周囲に与える影響が大きいため、単独の担当職員が抱えるには課題が大きい
- ・公共交通を元気にすることが最終目標ではなく、地域住民が元気に楽しく生活するための一つのツールである

ありがとうございました